

# 住民避難に関する愛媛県の取組

令和3年12月21日

愛媛県 防災危機管理課長 岡田 文夫

1

## 西日本豪雨災害後の主な取組(1)「公助」

### 県災害対策本部の対応

県災害情報システム高度化	地図情報等による市町の避難情報の発令支援や、AIによる発生初期の被害全容把握などを行う高度化した災害情報システムを構築、運用開始
災害対策本部組織強化	住宅確保支援グループや応援職員調整班の設置 災害時情報収集職員(リエゾン)について、管理職の指名や研修の実施により派遣体制を強化

### 住民の避難

防災行政無線の性能向上 戸別受信機の配置推進	屋外スピーカー等の性能改善及び個別受信機の整備拡充を望む市町へ一部経費を補助
---------------------------	--

### 被災者の生活支援

被災者支援連携システムの導入	市町と連携し住家の被害認定や罹災証明書発行等の市町業務支援システムを構築、運用開始
----------------	---

2

## 住民の避難

防災士の更なる養成	県が実施する防災士養成講座の対象者を拡大(全国1位を目指す)
自主防災組織の活性化	自主防災組織の防災訓練実施や地区防災計画策定等に係る活動経費の一部の補助
個別避難計画の作成の支援	避難行動要支援者の個別避難計画の作成を進める体制の整備(R3モデル事業)

## 被災者の生活支援

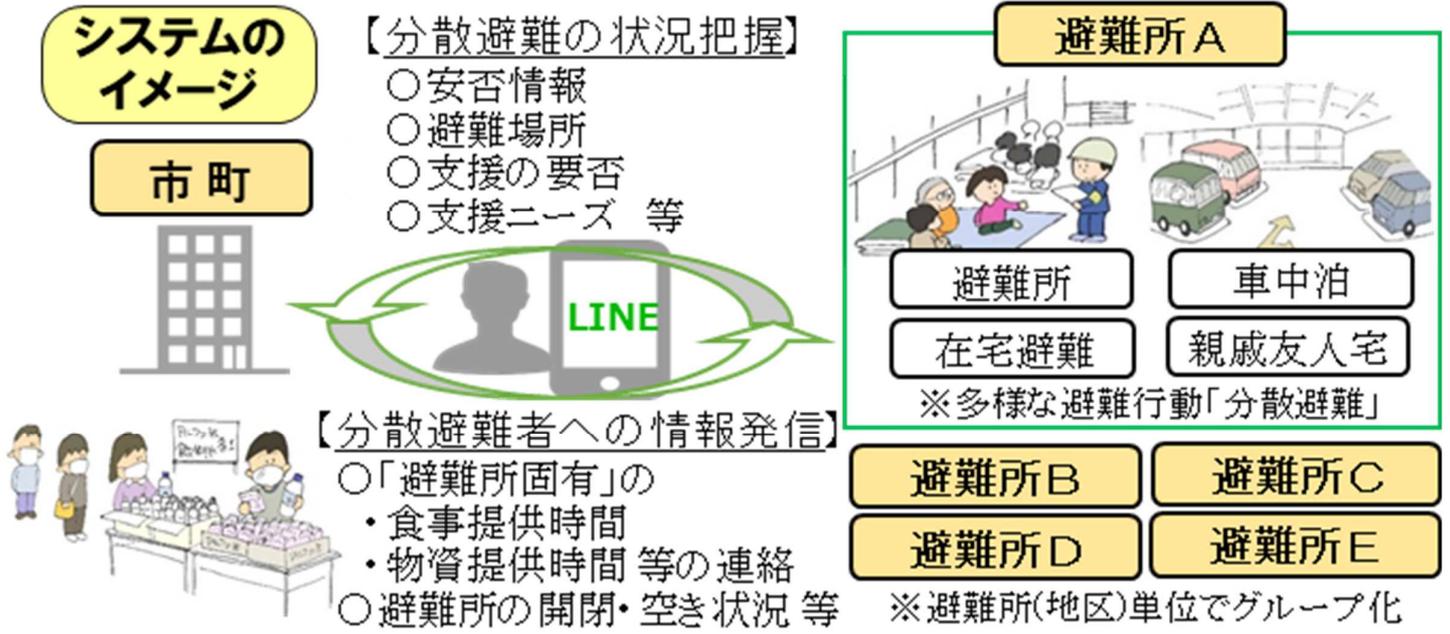
避難所運営マニュアルの整備支援	市町の避難所運営マニュアルの見直し等を支援 愛媛大学と連携し、避難所ごとの運営マニュアルのモデルを作成
-----------------	--

## 住民の避難

国の避難情報の見直しの周知	5段階の警戒レベルの周知徹底
避難情報の理解促進	県防災メール、ひめシェルター等での警戒レベルの配信
住民の避難意識の向上 (正常性バイアスの払拭)	県政広報番組、広報紙での周知 避難行動を促すDVD等を作成 LINEを活用した分散避難の把握・支援を行うシステム(R3新規予算) 「新たな避難行動」の定着に向けた分析・改善(R3新規予算)

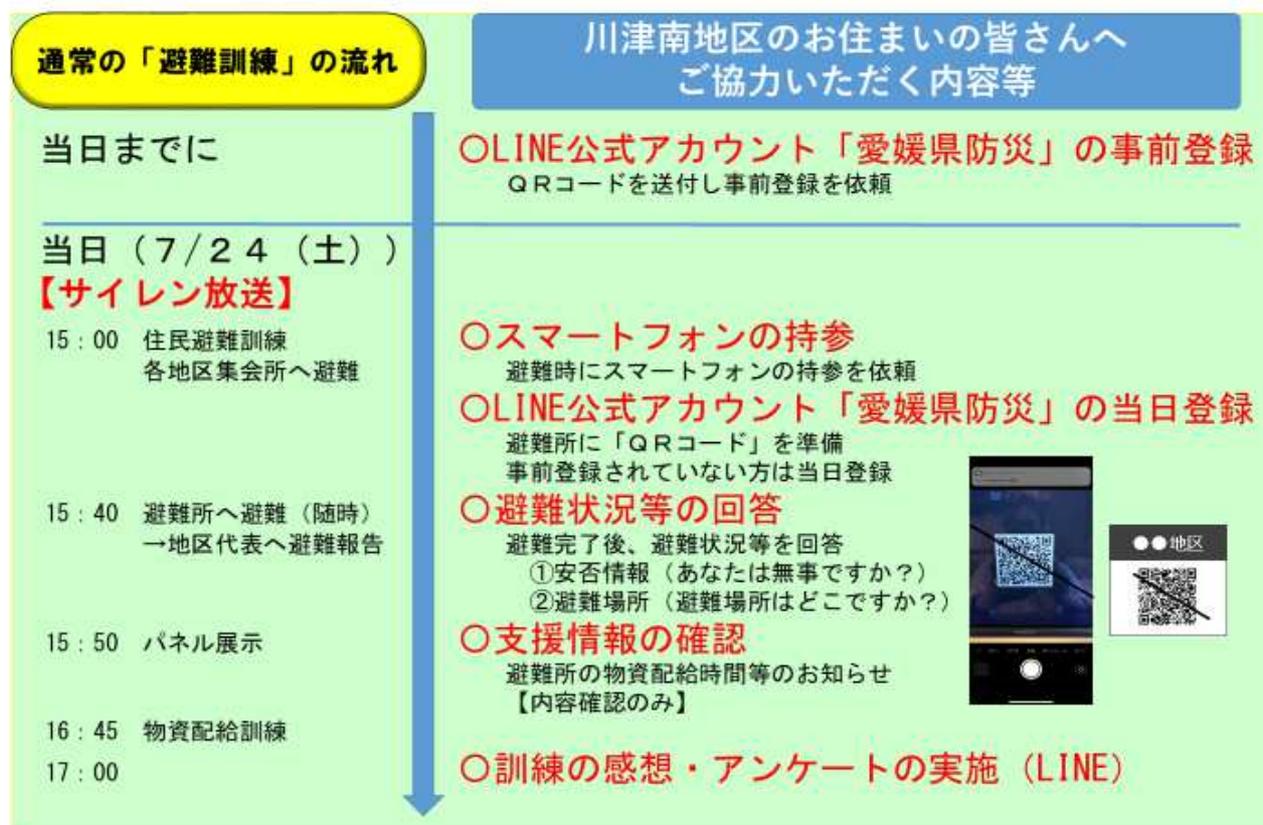
新たな避難行動定着促進事業

LINEを活用した分散避難の把握・支援を行うシステム



LINEを活用した分散避難の把握・支援を行うシステム

川津南避難訓練の流れ



19:47

川津南避難訓練・避難状況の把握

川津南避難訓練・避難状況の把握

今、現在のあなたの避難状況等について教えてください。

あなたご自身は無事ですか？ **必須**

はい

いいえ

今一緒に避難しているご家族は無事ですか？ **必須**

はい

いいえ

単身世帯（1人のみ）

あなた及び一緒に避難しているご家族はどこに避難されていますか？

※家族の避難状況は、家族の代表者が入力してください。

避難所（分館や集会所など） **必須**

0人

自宅 **必須**

0人

19:47

川津南避難訓練・避難状況の把握

0人

自宅 **必須**

0人

職場 **必須**

0人

車中泊 **必須**

0人

親戚・友人宅 **必須**

0人

移動（避難）中 **必須**

0人

その他

0人

送信

19:48

愛媛県

お知らせ

避難所が●●時に開設されました。

避難状況について以下へご入力ください。

避難状況を回答する

ご提出ありがとうございました。回答を受け付けました。

○ 15：30現在の避難所へ避難されている方は「●●人」です。

○ 物資配給訓練は「16：45」からです。

川津南避難訓練 7/24(土)のスケジュールはこちら

市町から防災減災のお知らせ

県から防災減災のお知らせ

ひめシェルターのご案内

メニュー

## 最近のトピック(令和3年度新規予算)

### 新たな避難行動定着促進事業

### 「新たな避難行動」の定着に向けた分析・改善

### 住民避難行動調査分析事業（愛媛大学連携事業）

避難に関する住民の意識と行動との関係などの実態を把握・分析。  
 避難行動の判断要因を整理し住民の避難行動促進策の展開に役立てる。

調査内容

- 自らの災害リスクと避難行動をどこまで考えているか
- 理解度や災害時の行動に与える要因は何か
- ・平常時の意識と災害時の行動の関連性
- ・分散避難の可能性と実態

分析・活用

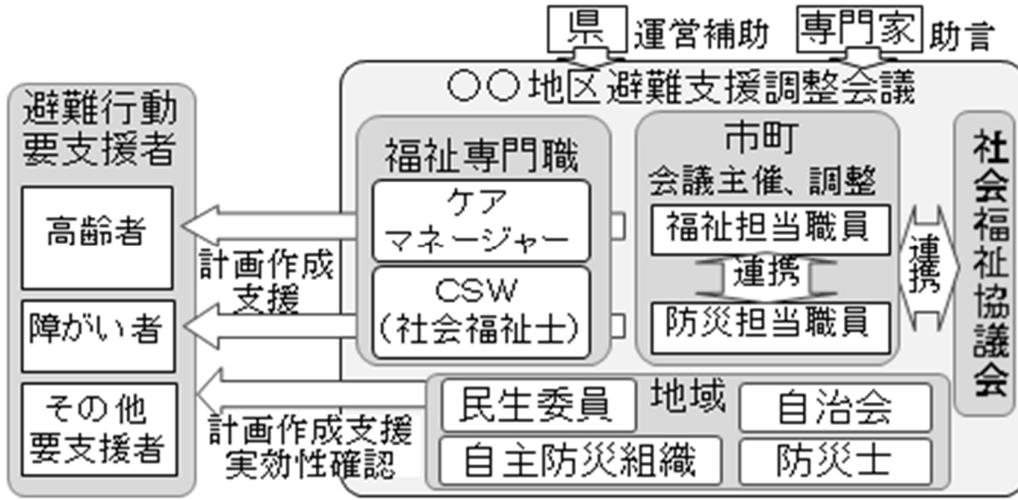
- 自助・共助による住民の自発的な避難行動促進策を検討
- 避難行動に繋がる事実を抽出、効果的な啓発の工夫を検討

新たな避難行動定着促進事業

防災・福祉連携による「避難行動要支援者」対策の推進

避難行動要支援者に係る個別避難計画作成モデル事業

地域の防災・福祉関係者が協働し、地区内の要支援者の計画作成・避難支援を行う体制を構築。計画作成から検証まで一連の取組をモデル化。



避難行動要支援者に係る個別避難計画作成モデル事業

○国モデル事業実施地区

市町名	対象地区	主なハザード	特色
四国中央市	全域	津波 洪水 土砂災害	福祉専門職(介護支援専門員、相談支援専門員)が個別避難計画作成の主要部分を担うモデル
東温市	下林地区	洪水 土砂災害	市社会福祉協議会が地域の関係者をコーディネートして計画作成を進めるモデル

○県単独事業実施地区

市町名	対象地区	主なハザード	特色
松山市	高浜地区	津波 土砂災害	自主防災組織が計画作成を担うモデル
西予市	三瓶地区 城川地区	津波 土砂災害	自治会、地域づくり団体等が協力して計画作成を進めるモデル
宇和島市	鶴島地区	津波 洪水 土砂災害	防災士の連絡組織が計画作成を受託するモデル
愛南町	福浦地区	津波 土砂災害	地域(防災士、自治会、民生児童委員等)主体で計画作成を進めるモデル

## 小学生防災学習コンクール

県下の児童から防災学習作品を募集し、その学習過程を通じて防災意識を高めるとともに、家庭での会話や作品展示を通じて広く県民への普及・啓発を図る

### 応募資格

愛媛県内の小学校及び特別支援学校の該当学年の児童

- ・低学年の部…小学校1年生及び2年生
- ・中学年の部…小学校3年生及び4年生
- ・高学年の部…小学校5年生及び6年生

### 作品テーマ・規格

- 自然災害を対象とした「防災」に関するもの  
※地震、津波、台風、豪雨など。  
火災・事故など人的要因による災害除く。
- 四つ切画用紙サイズまでの大きさのレポート形式(枚数制限なし)

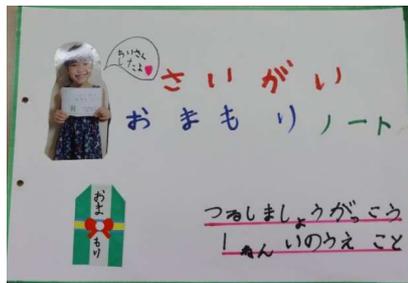
### 受賞者数等

- ・作品賞 51作品(最優秀:3作品、優秀賞:15作品、努力賞:33作品)
- ・学校特別賞 2校
- ・応募数 124作品(46校、個人117作品、グループ7作品)

## 小学生防災学習コンクール 最優秀賞受賞作品

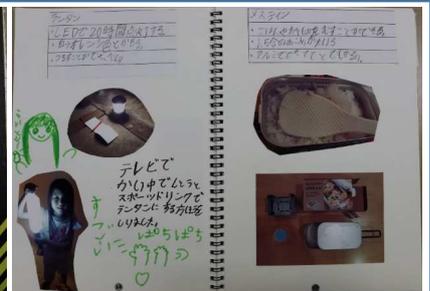
### 低学年の部

「さいがいおまもりノート」  
自分の住む地域を実際に歩き、避難所や危険な場所を見て回ったもの。



### 中学年の部

「ぼくのぼうさい百科じてん」  
自宅にある防災グッズを一つ一つ実際に使い、使用感をまとめたもの。



### 高学年の部

「命を守るために 私たちができること」  
地域の災害リスクや各世帯の状況、自主防災組織の活動などを詳細にまとめたもの。

